

雄雌調査 結果報告

2013年4月 バードリサーチ

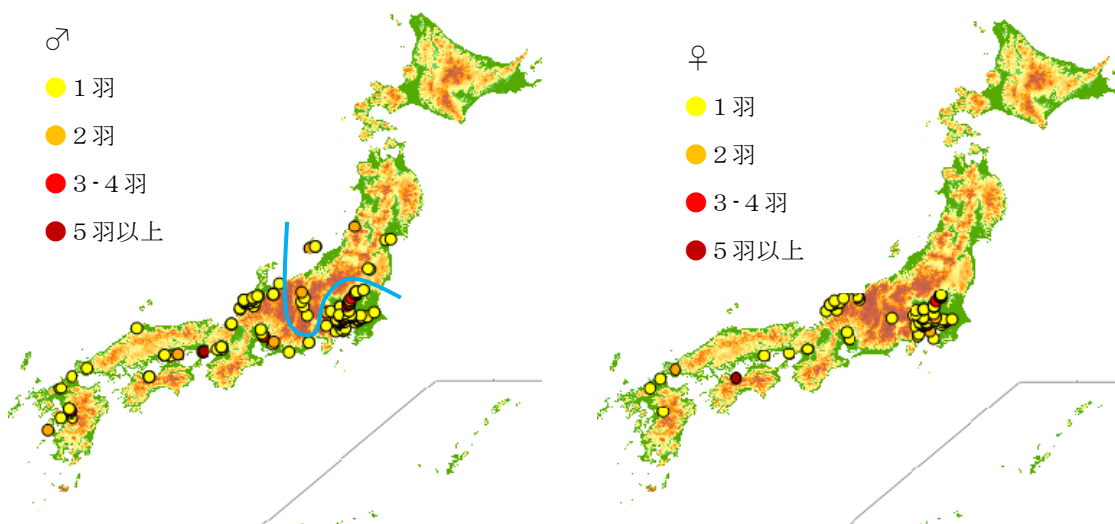
2011年度、2012年度と2年にわたり行ないました雄雌調査にご協力いただきありがとうございました。101名の方から551件の情報をお寄せいただきました。

この調査は、モズ、ジョウビタキ、ルリビタキの雄雌の生息数や分布をモニタリングすることで、種のモニタリングではわからないもう少し、細かい環境の変化もモニタリングでは、ということで、開始しました。まだ1回目の調査なので、「変化のモニタリング」はできませんが、今後の変化を知る上でのベースデータをとることができました。以下にその結果をご報告します。

各種鳥類の分布

以下に記録が多く寄せられたモズとジョウビタキの雄雌の地理的な分布を示しました。

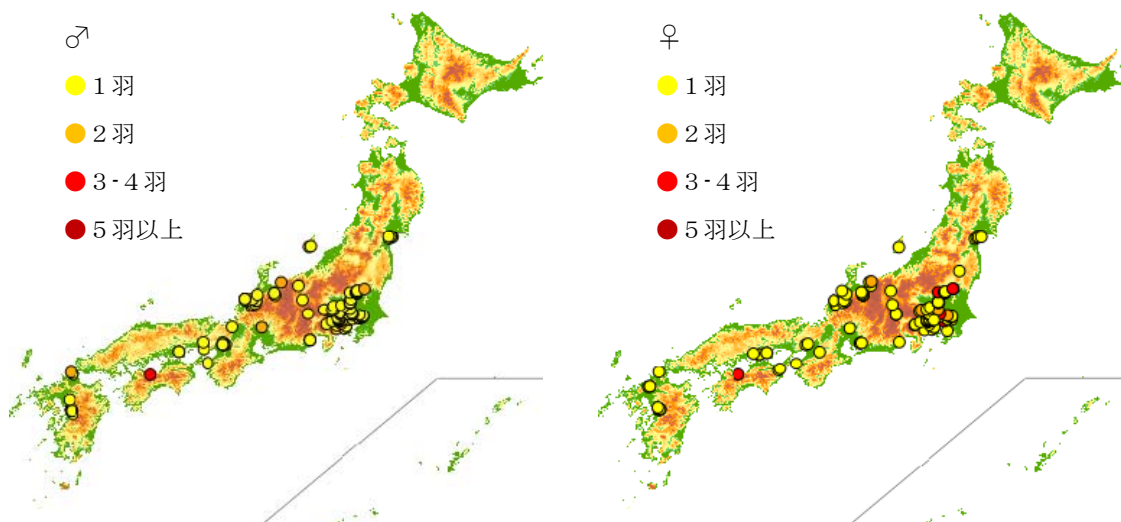
○モズ



記録地点が雄の方がより北の方にも分布している（左図青い線より北側）という点が異なっていました。ただ、雌が南で多いかというと、そういうわけではなく、全体に雄が多く記録されました。雌がどこにいるのか、ちょっと不思議なところです。雄よりもひっそりと越冬していて観察されにくいのでしょうか？

気候変動で冬の寒さが緩くなったときに、雌の分布がより北へあがっていくのか、また雄の北限もさらにあがっていくのかなど、今後の調査で見ていきたいと思えます。

○ジョウビタキ



モズと異なり，雌雄の地理的な分布には違いは見られませんでした。

各種鳥類の環境利用

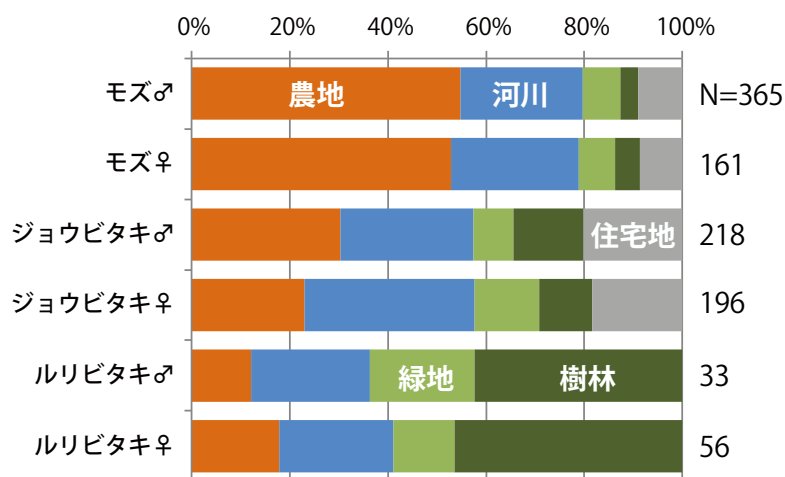
皆さんに記載していただいた調査地の環境を集約して，農地，河川，緑地，樹林，住宅地に大別し，それぞれの種がどのような環境を利用しているかみてみました。

モズは農地や河川に多く，ルリビタキは樹林や緑地に多く，ジョウビタキは利用環境の幅が広いといった，種による違いが明確に認められました。

近年モズ類が減っているといわれます。全国鳥類繁殖分布調査の解析（Amano & Yamaura 2007）でも農地への依存

度の高い鳥が減り傾向にあるといわれていますので，こうした利用環境の特性がモズの減少を招き，また環境利用の幅の広いジョウビタキがそれほど減っていないということにつながっているのかもしれませんが。

本調査では同種の雄雌間で環境利用に違いがあるかを知りたかったのですが，こうした



景観レベルでは違いはありませんでした。位置情報をもとに、もう少し細かいスケールでの環境の違いについて、今後解析していきたいと思います。

最後に、以下の皆様（敬称略，順不同）にご協力をいただきました。お名前を列記させていただき、お礼に代えさせていただきます。調査はこの2年で一区切りとしますが、5年後あるいは10年後に再度調査を実施し、分布の変化について明らかにしていきたいと思っています。その際は、またご連絡差し上げますので、ご協力よろしく願いいたします。

石田スーザン，パーカー眞知子，阿部智，安田耕治，伊林早苗，井上幹男，永野建次郎，越川重治，越智葵，横山由里子，岡本昭男，加藤ななえ，加藤俊哉，河口芳里，梶本恭子，丸山二三夫，菊地有子，吉井文吾，久保賢一，宮崎一幸，宮本桂，金子凱彦，犬丸瑞枝，原田正之，古谷孝，後藤裕子，香川正行，高井正明，高橋，高橋邦年，合田延寿，今森達也，佐久間文男，佐々木高寛，細山美代子，三田長久，山浦秀雄，山崎悠一，鹿間信弘，若狭誠，小松周一，小堀脩男，小林俊子，植田睦之，深瀬徹，清水敏弘，西教生，西本由佳，斉藤けい子，石川喜春，石塚徹，石田健，石濱徹，千島康幸，川口直希，倉掛節子，多田，多田英行，大坂英樹，大出水幹男，大村香，大塚啓子，大島理恵，中村后子，長恵子，長倉牧子，長嶋宏之，辻郁子緒，田中葉子，田中利彦，渡辺美郎，東，藤波不二雄，栃谷満夫，白井康博，白石ひとみ，白石健一，白川司，粕谷和夫，飯泉仁，浜野建男，富永誠，平野敏明，本田孝明，又野淳子，柳内俊雄，友野みゆき，有川章子，廣瀬真名

引用文献

Amano, T. & Yamaura, Y. 2007. Ecological and life-history traits related to range contractions among breeding birds in Japan. *Biological Conservation* 137: 271-282.